

科目番号	51006	分類	履修者	高度実践看護コース	学年		
科目名	診断のためのNP実践演習 (Diagnostic skill Practice for Acute Care Nurse Practitioners)				1		
					担当セクター		
					後期		
担当者	草間朋子 他15名	区分	必修	単位	2	時間数	60
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連	
【概要】 臨床のクリティカル領域で経験する患者のフィジカルアセスメントができ、特徴的な検査について、安全かつ確実に実践できるための知識・技術を修得する。 また、臨床のクリティカル領域で経験する機会の多い特徴的な症状について、科学的根拠となるデータに基づく診察・診断の考え方、診断方法を想起しながら診断するプロセスを実践的に学ぶ。クリティカル領域の事例に対して確実な診断技術を身につけるとともに診断に伴うインフォームドコンセントが行えるための力を身につける。 【目標】 1. クリティカル領域における必要な検査のオーダーとそのデータ評価ができる。 2. クリティカル領域の一般的な事例について診察・診断が実践できる。 3. クリティカル領域のトリアージ（重症度・緊急度の判断）ができる。 4. 検査、診断後の患者および家族への支援ができる。						○	1. 患者・患者家族のニーズに自律的に対応できる実践能力
						○	2. 患者の擁護者として活動できる倫理的意思決定能力
						○	3. 看護・看護学の発展・進化に寄与し社会・時代のニーズに対応した創造的な研究・開発能力
						○	4. 多職種と連携・協働して行われるチーム医療の中で看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力
授 業 計 画							
回	内 容						担当教員
第1・2回	I. クリティカル領域における必要な検査技術の実際 1) 腹部超音波検査の必要性の判断とデータ評価 <講義> (1) 腹部超音波検査の必要性 (2) 腹部超音波検査を行う上での基礎的知識 (3) 腹部超音波検査の方法						草間 他15名
第3～5回	2) CT・MRI・PETの必要性の判断とデータ評価 <講義> (1) CT・MRI・PETの目的 (2) CT・MRI・PETの方法 (3) CT・MRI・PET画像のみかた (4) 造影剤の点滴の施行とアセスメント						
第6～10回	<演習：東京医療センター検査部門にて> (1) 腹部超音波検査の画像評価 <演習：東京医療センター放射線部門にて> (1) 事例を用いたCT・MRIの読影/PETの読影 <演習：東京医療センター放射線部門にて> (1) 血管造影検査施行時の介助の見学から介助方法を再考する <ul style="list-style-type: none"> ・一時的ペースメーカー、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖 ・一時的ペースメーカー、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングを要する主要疾患の病態生理 						
第11～13回	3) 動脈穿刺 (1) 直接動脈穿刺の方法 (2) 橈骨動脈ラインの確保の方法 (3) 画像支援下における動脈血採血の方法（講義とシミュレータを用いての理解） <ul style="list-style-type: none"> ・動脈穿刺法に関する局所解剖 ・動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント ・動脈ラインの確保の目的 ・動脈ラインの確保の適応 と禁忌 ・穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象 とその対策等） ・患者に適した穿刺及び留置部位の選択 						

第14回	II. クリティカル領域の診察・診断の実際 1) ショックの事例 ・直接動脈穿刺法による採血の目的 ・直接動脈穿刺法による採血の適応と禁忌 ・穿刺部位と穿刺に伴うリスク（有害事象とその対策等） ・患者に適した穿刺部位の選択
第15・16回	2) 発熱、腹痛の事例
第17回	3) 嘔吐・下痢の事例
第18回	4) 脳卒中の事例
第19・20回	5) 呼吸困難の事例 ・気管切開の目的 ・気管切開の適応と禁忌
第21回	6) 胸痛の事例
第22・23回	7) 外傷の事例 ・胸腔ドレナージに関する局所解剖 ・胸腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理
第24回	8) 四肢の評価
第25回	9) 頭部外傷の評価
第26回	10) 手順書を用いたインスリン製剤の事例 ・糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖 ・糖尿病とインスリン療法に関する病態生理 ・糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント
第27～30回	III. トリアージの実際 1) トリアージ概念と機能、方法 2) 事例を用いたトリアージの実際 ・腹腔ドレナージに関する局所解剖 ・腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理
第31回	3) 災害におけるトリアージ
第32・33回	IV. 特定行為に係る看護師の研修制度及び手順書について V. 診断後の患者及び家族への支援
事前・事後 学習	事前学習：当日の課題に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み込むこと。
評価の方法	課題レポートにて評価する。この他に、筆記試験および観察評価を行う。 フィードバックは適宜行う。
参考図書 ・資料等	◎1) 江原 茂：画像診断を学ぼう・単純X線写真とCTの基本, ディカル・サイエンス・インターナショナル ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。